

第 4 回 総合計画審議会における主な意見等

1 第 6 回（平成 30 年度）市民満足度調査報告書について

- ① 「治水対策の推進」の施策について、満足度は「どちらともいえない」が増えてきているが、重要度は「重要である」が依然として高くなっている。2020 年の 9 月には東海豪雨から 20 年を迎えるため、節目で何か取組ができると良いのではないか。
- ② 満足度調査全体として、「どちらともいえない」がどんどん増えてきていることをどのように理解するか、考えていくのかということが方向性につながると思う。
- ③ 「満足」と「やや満足」を合計したものを指標として扱っていて、それを母数全体でパーセンテージとして表示しているが、「どちらともいえない」が多くなると相対的に指標は小さくなってしまふ。反対に考えれば、「やや不満」と「不満」という方も相対的に小さくなるのではないか。そうすると、「どちらともいえない」という回答を外した母数にして指標を見るというのも、一つ考え方としてあるのではないか。
- ④ 一般的に満足度が低くなっている要因について、地域別や居住年数別といった属性別の状況から分析すると、恐らく合併に対してもものすごく高い期待水準を抱いていたが、合併後の市の取組がその期待水準よりも高くないと感じている方が多いのではないか。
- ⑤ 合併して市が大きくなったことにより、少し不便を感じる部分があるのかなと思う。年代の高い方は、さらに自分たちの行動範囲が狭まる分、困ることが増えているのではないか。以前から住んでいる方々がまちに魅力を感じられないというのは、大変重要視した方が良いのではないかと思う。
- ⑥ 色々な方々が、行政で行われているサービスをきちんと把握ができるような取組をしてもらえると良いと思う。
- ⑦ コミュニティ活動がブロック制になったことにより、高齢者は自分たちの仲間意識が薄れてきており、満足度低下の原因の一つであると感じる。
- ⑧ 満足度調査の結果からは、公共交通に関して必要性が高まっていることが分かる。高齢者の増加や核家族化の進行などに伴って、これから重要度が高まっていく時代になると思うので、ぜひ公共交通に関しては力を入れていっていただきたい。
- ⑨ 満足度については、回答者の構成や外的な要因によって落ちたり高くなったりするので、ある程度時系列で見ていくことが重要である。
- ⑩ 報告書の表中の文字が小さくて読めない部分については、文章中に表現するとか、別の欄に大きく書くとか、どんなことが書かれているか読めるようにしていただきたい。
- ⑪ 「どちらともいえない」の扱いについて、なぜそういう回答になったのかを考えていけるアンケート調査になっていると良い。満足度を聞く前に、一旦施策に関心があるかないかを聞いてみると、施策に関心がある方やサービスの対象の方の満足度がとれるので、割と正しい数値が出てくるのではないか。また、大多数の方が関係してくる施策について関心のない人が多い場合は、それ自体が問題で、関心を高める取組が必要ということが見えてくる。
- ⑫ 「満足」や「やや満足」と回答していた方が、「どちらともいえない」にシフトしている部分を読み取れる。本当に行政に腹が立っていれば「不満」にシフトするところが「どちらともいえない」になっているので、そういう意味でも市民との対話や広報というのは新たな重要な課題と思う。

2 後期基本計画（案）清須市の現状と今後の見通し等について

- ① 4 ページの産業別就業人口割合について、第二次・第三次産業がどのような産業なのかは記載があるが、第一次産業についても説明があると良いのではないか。
- ② 7 ページの地価動向について、春日地区で標準地の場所が変わったことにより価格が下がったという説明があったが、そのことも記載した方が良いのではないか。
- ③ 17 ページの「あしがるバス」の利用者数については年々増加しているが、乗車率を追記すると、これは無駄であるとか、必要性が高いということがより鮮明になるのではないか。

3 後期基本計画（案）清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略 2020 について

- ① 41、42 ページの人口推計のグラフについて、再掲としてあるが、5 ページの人口推計のグラフとは内容が違うので、注釈を入れた方が良いのではないか。
- ② 47 ページのグラフについて、説明文では「60 歳代以降は参加している方が多くなっています」と言い切っているが、60 歳代の女性はそうっていないので、「比較的多くなっています」というような形にした方が良いのではないか。また、グラフ中で「男」「女」という書き方になっているが、「男性」「女性」と書いた方が良いのではないか。

4 後期基本計画（案）7つの政策の実現に向けた37の施策等について

- ① 満足度の目標値は、ある程度これくらいは達成したいという充足値であり、その観点からすると、基準値は直近のデータにしておいて、もちろんより向上を目指して取組は行うものの、評価をする際には直近のデータに基づいて評価するのが良いのではないか。
- ② 数値目標を議論する前に、何のための指標なのかを押さえておくことが必要である。指標がどういう状態であれば良いのかを考え続けていくことが大事だと思う。
- ③ 満足度については、これまでの推移の状況を認識した上で、次の目標値を設定すべき。
- ④ 観光の方では、清洲城の入場者数について、予算がない中で過去最高のところに目標を持ってこられると、担当の方がかわいそうだと思う。清須市には展示ができるようなものは少ないが、借りることはできるので、展示ケースを揃えて借り物でも良いので変えていくというやり方をして、できるだけの入場者数を増やしていくことが必要である。
- ⑤ 施策 302「地域福祉の充実」の施策の展開「5 ボランティア活動への支援」について、活動をした方が証明をもらって、それで「あしがるバス」に乗れる仕組みができないか。
- ⑥ 施策 501「観光の振興」の施策の展開「7 観光活動を行う団体への支援」について、近隣の城郭がある市町と連携したスタンプラリーなどを考えてもらえると良いのではないか。
- ⑦ 施策 701「市民参加・市民協働の推進」について、企画政策課と社会福祉協議会との連携をしっかりと考えていただいて、これからのボランティアに対する支援をお願いしたい。
- ⑧ 118 ページの現状と課題の中に、「清須城跡（清洲城下町遺跡）」とあるが、「須」と「洲」を使い分けているのか。
- ⑨ 市民との連携、組織間の連携、組織内の連携など、色々な連携を進めていく上ではコミュニケーションが大事であり、これからはコミュニケーションも活発になっていくと思うが、良い部分があれば、パワーハラスメントのように意図しないけれども悪くなってしまう部分もあると思うので、それをフォローしていくことが必要である。